

大阪狭山市教育委員会
保育園・幼稚園・認定こども園教職員
アンケート結果報告書

令和6年3月

目 次

1	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	調査結果の表示方法	1
2	調査結果	2
◆	あなたご自身のことについて	2
◆	教育や学習に関する取組みについて	4
◆	自由記述	13
※	参考資料 アンケート調査票	15

1 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、次期「大阪狭山市教育振興基本計画」の策定にあたって、日々、保育園・幼稚園・認定こども園の現場で子どもに向き合う教職員から、大阪狭山市の就学前教育・保育に関する現状に対する評価や今後の取組についての考えや意見を聞いて、計画策定及び今後の本市教育施策の展開方向について検討する上での資料とすることを目的に実施したものです。

2 調査方法

調査期間	調査開始:令和6年3月8日(金) 回収期限:令和6年3月25日(月)
調査対象	対象者:大阪狭山市の保育園・幼稚園・認定こども園の教職員 対象数:268人
調査内容	1 あなたご自身のことについて(3 設問) 2 教育や学習に関する取組について(10 設問) 合計:13設問
調査方法	各園に調査票を直接配布し、郵送またはWEB(オンライン)によって調査票を回収

3 回収結果

配布数	268件
回収数	144件(内訳:用紙101件／WEB:43件)
有効回収率	53.7%

4 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合があります。
- ・単数回答の設問は（SA）、複数回答は（MA）、記入回答は（FA）と表記している。

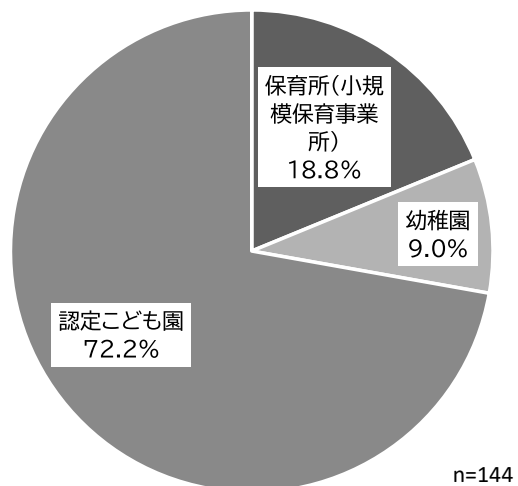
2 調査結果

◆ あなたご自身のことについて

問1 在籍はどちらですか。(○は1つ) 【SA】

○「認定こども園」の割合が 72.2%、「保育所(小規模保育事業所)」の割合が 18.8%、「幼稚園」の割合が 9.0%となっています。

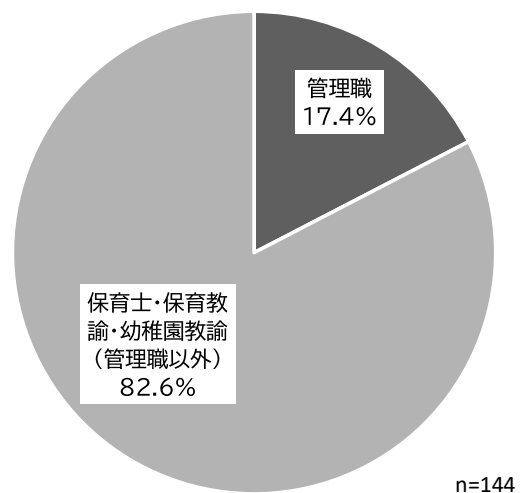
調査数(n=144)	回答数	割合
保育所(小規模保育事業所)	27	18.8%
幼稚園	13	9.0%
認定こども園	104	72.2%



問2 職種を教えてください。(○は1つ) 【SA】

○「保育士・保育教諭・幼稚園教諭(管理職以外)」の割合が 82.6%、「管理職」の割合が 17.4%となっています。

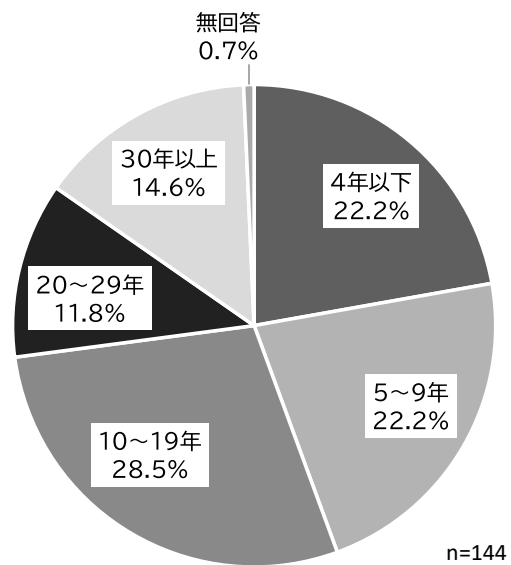
調査数(n=144)	回答数	割合
管理職	25	17.4%
保育士・保育教諭・幼稚園教諭(管理職以外)	119	82.6%



問3 経験年数を教えてください。(〇は1つ) 【SA】

○「10～19 年」の割合が 28.5%、「4年以下」と「5～9年」の割合が 22.2%、「30 年以上」の割合が 14.6%となっています。

調査数(n=144)	回答数	割合
4年以下	32	22.2%
5～9年	32	22.2%
10～19年	41	28.5%
20～29年	17	11.8%
30年以上	21	14.6%
無回答	1	0.7%

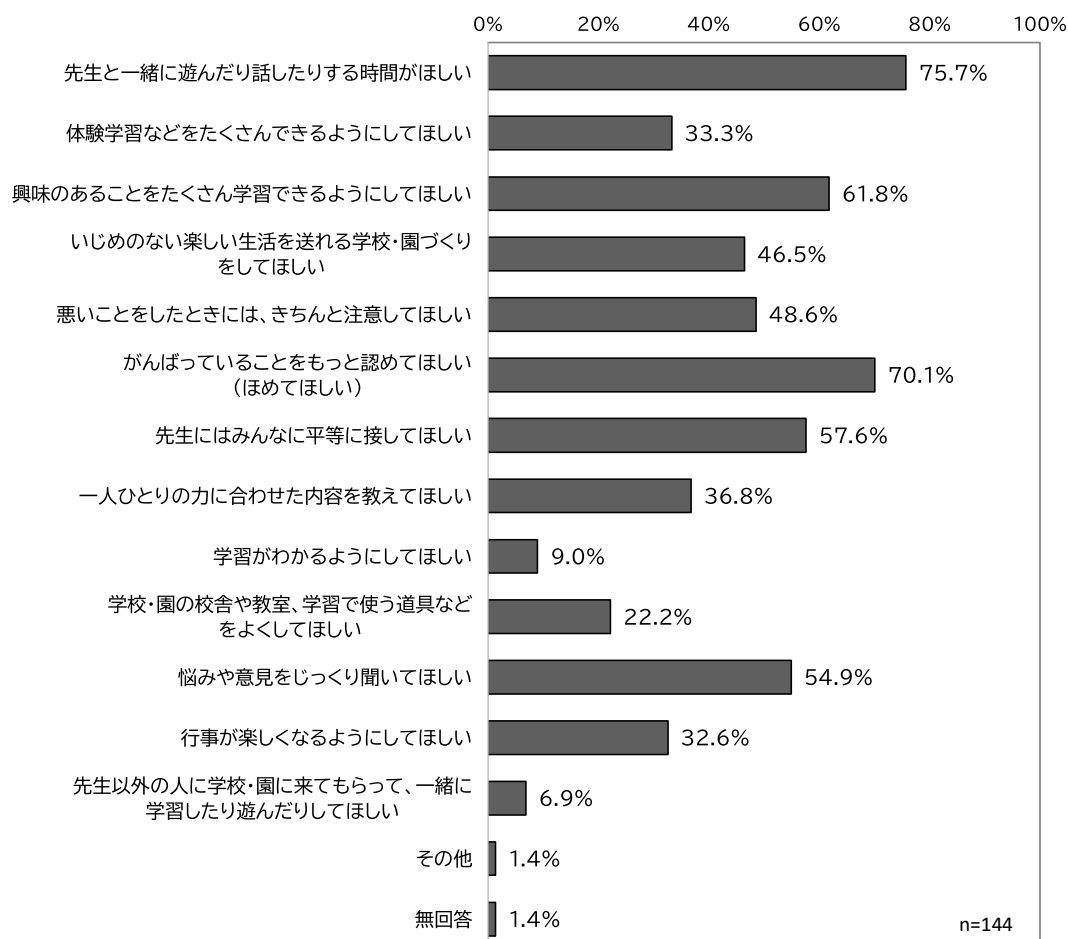


◆ 教育や学習に関する取組みについて

問4 子どもたち(保護者)が園や先生に望むことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)【MA】

〇「先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい」の割合が 75.7%と最も高く、次いで「がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)」の割合が 70.1%、「興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい」の割合が 61.8%となっています。

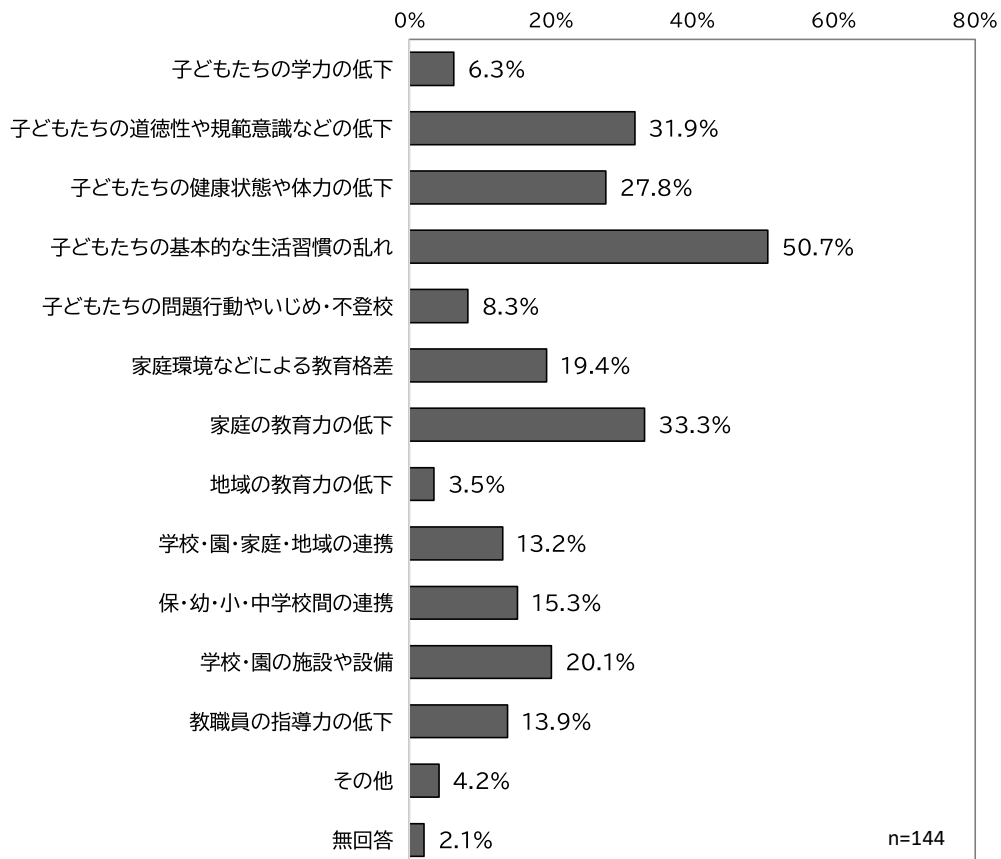
調査数(n=144)	回答数	割合
先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい	109	75.7%
体験学習などをたくさんできるようにしてほしい	48	33.3%
興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい	89	61.8%
いじめのない楽しい生活を送れる学校・園づくりをしてほしい	67	46.5%
悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい	70	48.6%
がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)	101	70.1%
先生にはみんなに平等に接してほしい	83	57.6%
一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい	53	36.8%
学習がわかるようにしてほしい	13	9.0%
学校・園の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい	32	22.2%
悩みや意見をじっくり聞いてほしい	79	54.9%
行事が楽しくなるようにしてほしい	47	32.6%
先生以外の人に学校・園に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい	10	6.9%
その他	2	1.4%
無回答	2	1.4%



問5 大阪狭山市の子どもたちや就学前教育・保育の現場で課題だと感じていることは何ですか。（〇は3つまで） 【MA】

○「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「家庭の教育力の低下」の割合が 33.3%、「子どもたちの道徳性や規範意識などの低下」の割合が 31.9%となっています。

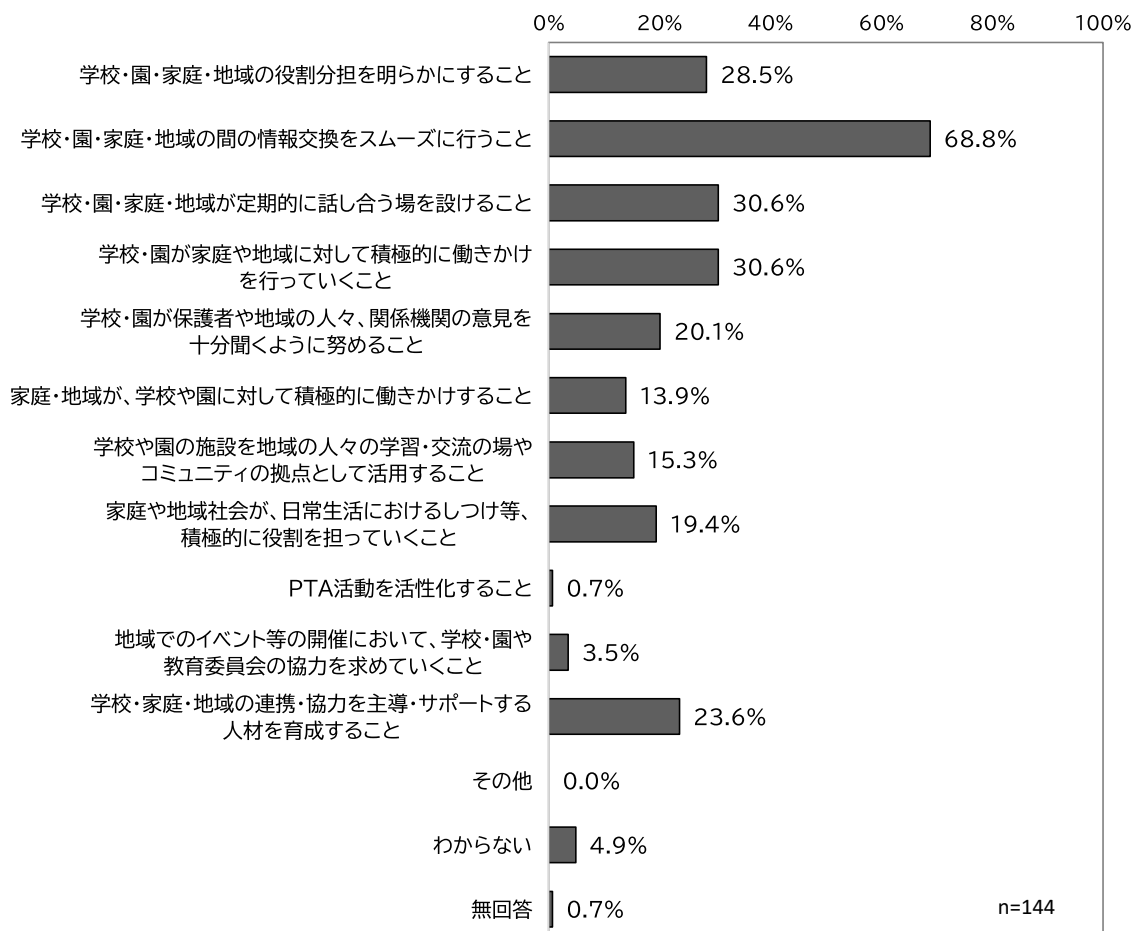
調査数(n=144)	回答数	割合
子どもたちの学力の低下	9	6.3%
子どもたちの道徳性や規範意識などの低下	46	31.9%
子どもたちの健康状態や体力の低下	40	27.8%
子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ	73	50.7%
子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	12	8.3%
家庭環境などによる教育格差	28	19.4%
家庭の教育力の低下	48	33.3%
地域の教育力の低下	5	3.5%
学校・園・家庭・地域の連携	19	13.2%
保・幼・小・中学校間の連携	22	15.3%
学校・園の施設や設備	29	20.1%
教職員の指導力の低下	20	13.9%
その他	6	4.2%
無回答	3	2.1%



問6 学校・園・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも) 【MA】

〇「学校・園・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が68.8%と最も高く、次いで「学校・園・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること」と「学校・園が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと」の割合が30.6%となっています。

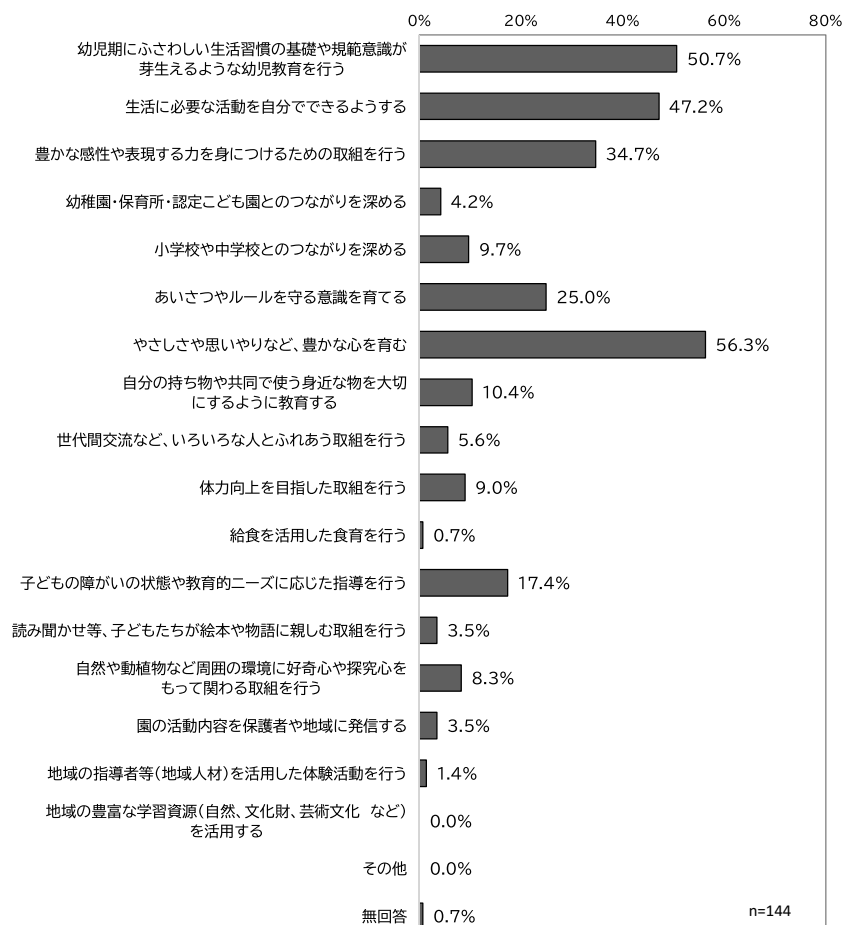
調査数(n=144)	回答数	割合
学校・園・家庭・地域の役割分担を明らかにすること	41	28.5%
学校・園・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと	99	68.8%
学校・園・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること	44	30.6%
学校・園が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと	44	30.6%
学校・園が保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること	29	20.1%
家庭・地域が、学校や園に対して積極的に働きかけすること	20	13.9%
学校や園の施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること	22	15.3%
家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと	28	19.4%
PTA活動を活性化すること	1	0.7%
地域でのイベント等の開催において、学校・園や教育委員会の協力を求めていくこと	5	3.5%
学校・家庭・地域の連携・協力を主導・サポートする人材を育成すること	34	23.6%
その他	-	-
わからない	7	4.9%
無回答	1	0.7%



問7 大阪狭山市の就学前教育・保育で、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで) 【MA】

○「やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む」の割合が56.3%と最も高く、次いで「幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行う」の割合が50.7%、「生活に必要な活動を自分でできるようする」の割合が47.2%、「生活に必要な活動を自分でできるようする」の割合が47.2%となっています。

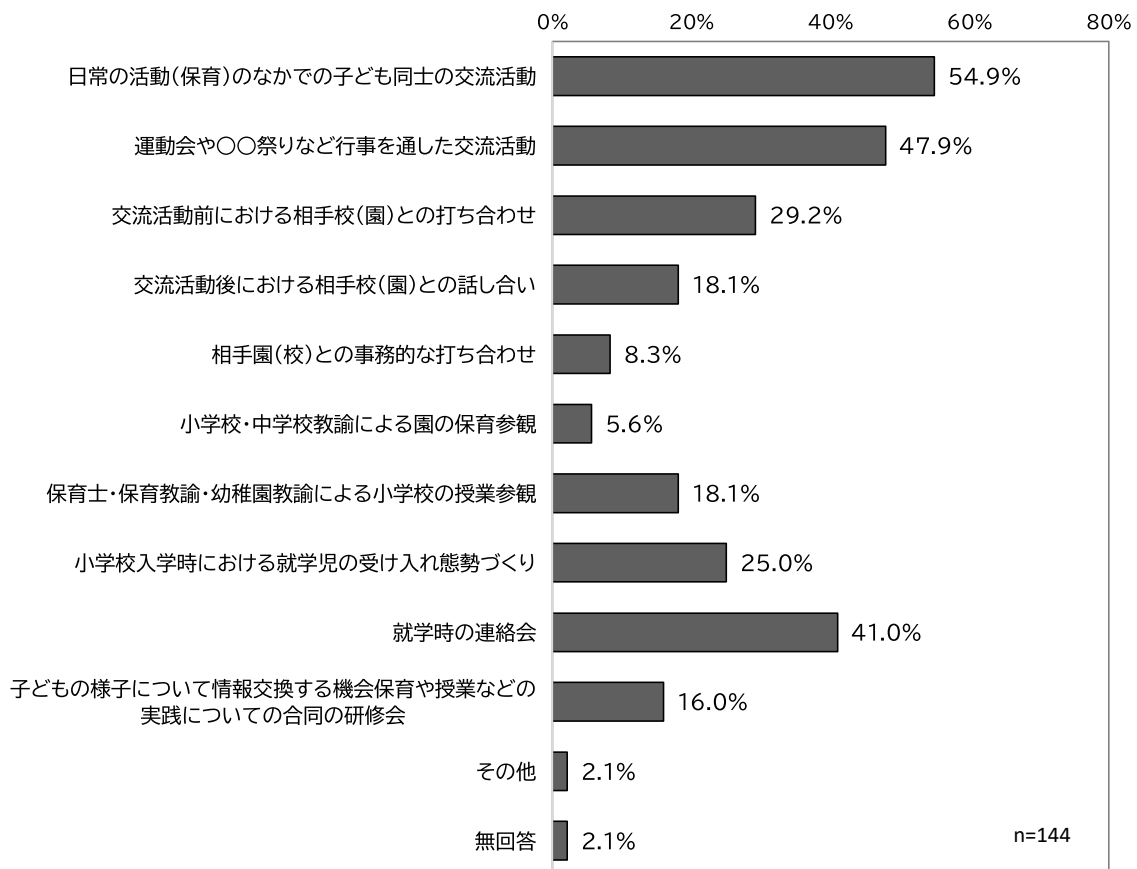
調査数(n=144)	回答数	割合
幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行う	73	50.7%
生活に必要な活動を自分でできるようする	68	47.2%
豊かな感性や表現する力を身につけるための取組を行う	50	34.7%
幼稚園・保育所・認定こども園とのつながりを深める	6	4.2%
小学校や中学校とのつながりを深める	14	9.7%
あいさつやルールを守る意識を育てる	36	25.0%
やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む	81	56.3%
自分の持ち物や共同で使う身近な物を大切にするように教育する	15	10.4%
世代間交流など、いろいろな人とふれあう取組を行う	8	5.6%
体力向上を目指した取組を行う	13	9.0%
給食を活用した食育を行う	1	0.7%
子どもの障がいの状態や教育的ニーズに応じた指導を行う	25	17.4%
読み聞かせ等、子どもたちが絵本や物語に親しむ取組を行う	5	3.5%
自然や動植物など周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わる取組を行う	12	8.3%
園の活動内容を保護者や地域に発信する	5	3.5%
地域の指導者等(地域人材)を活用した体験活動を行う	2	1.4%
地域の豊富な学習資源(自然、文化財、芸術文化 など)を活用する	-	-
その他	-	-
無回答	1	0.7%



問8 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携の取り組みとしてどのようなことを行っていますか。(〇はいくつでも) 【MA】

〇「日常の活動(保育)のなかでの子ども同士の交流活動」の割合が 54.9%、「運動会や〇〇祭りなど行事を通した交流活動」の割合が 47.9%、「就学時の連絡会」の割合が 41.0%となっています。

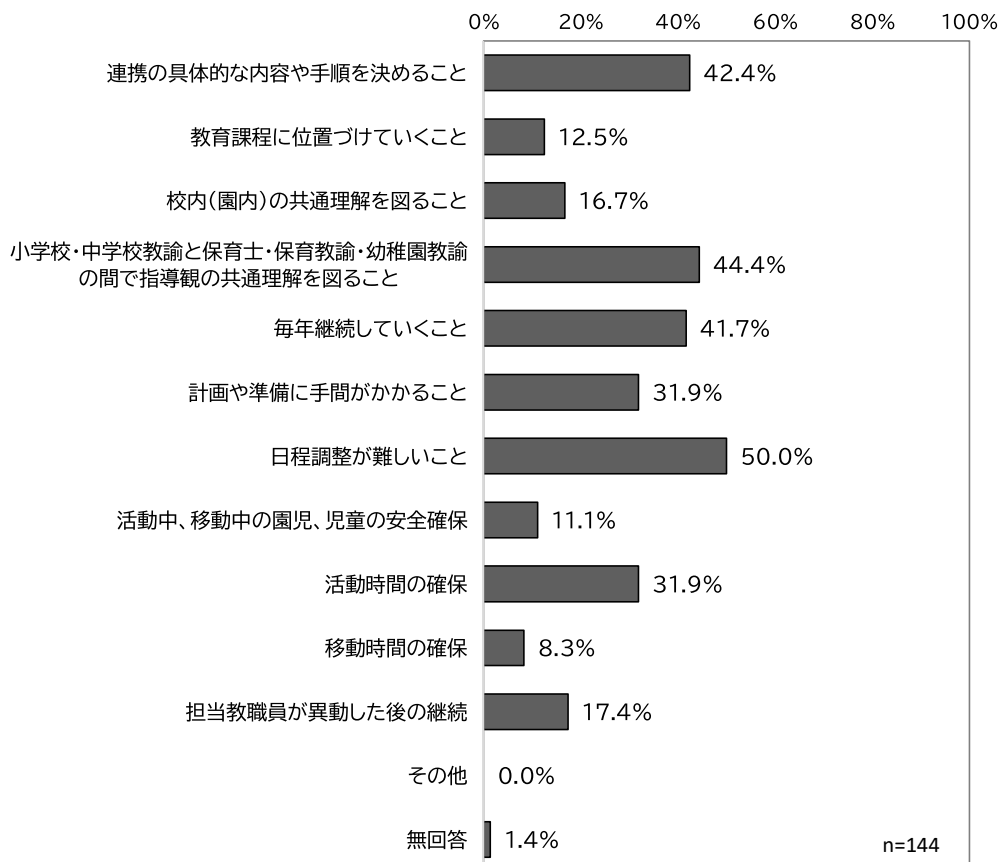
調査数(n=144)	回答数	割合
日常の活動(保育)のなかでの子ども同士の交流活動	79	54.9%
運動会や〇〇祭りなど行事を通した交流活動	69	47.9%
交流活動前における相手校(園)との打ち合わせ	42	29.2%
交流活動後における相手校(園)との話し合い	26	18.1%
相手園(校)との事務的な打ち合わせ	12	8.3%
小学校・中学校教諭による園の保育参観	8	5.6%
保育士・保育教諭・幼稚園教諭による小学校の授業参観	26	18.1%
小学校入学時における就学児の受け入れ態勢づくり	36	25.0%
就学時の連絡会	59	41.0%
子どもの様子について情報交換する機会保育や授業などの実践についての合同の研修会	23	16.0%
その他	3	2.1%
無回答	3	2.1%



問9 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携を進める際の課題は何ですか。
(〇はいくつでも) 【MA】

〇「日程調整が難しいこと」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「小学校・中学校教諭と保育士・保育教諭・幼稚園教諭の間で指導観の共通理解を図ること」の割合が 44.4%、「連携の具体的な内容や手順を決めること」の割合が 42.4%、「毎年継続していくこと」の割合が 41.7%となっています。

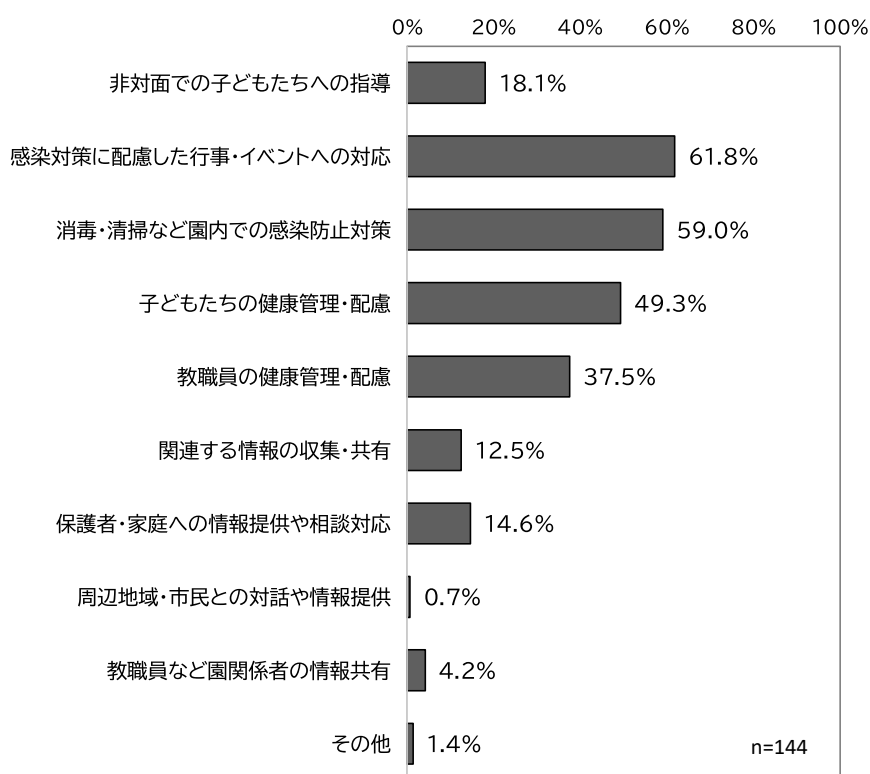
調査数(n=144)	回答数	割合
連携の具体的な内容や手順を決めること	61	42.4%
教育課程に位置づけていくこと	18	12.5%
校内(園内)の共通理解を図ること	24	16.7%
小学校・中学校教諭と保育士・保育教諭・幼稚園教諭の間で指導観の共通理解を図ること	64	44.4%
毎年継続していくこと	60	41.7%
計画や準備に手間がかかること	46	31.9%
日程調整が難しいこと	72	50.0%
活動中、移動中の園児、児童の安全確保	16	11.1%
活動時間の確保	46	31.9%
移動時間の確保	12	8.3%
担当教職員が異動した後の継続	25	17.4%
その他	-	-
無回答	2	1.4%



問 10 コロナ禍で特に困ったこと、今後、感染症や緊急時における備えの強化が必要なことは何だと思いますか。（○は3つまで） 【MA】

○「感染対策に配慮した行事・イベントへの対応」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「消毒・清掃など園内での感染防止対策」の割合が 59.0%、「子どもたちの健康管理・配慮」の割合が 49.3%となっています。

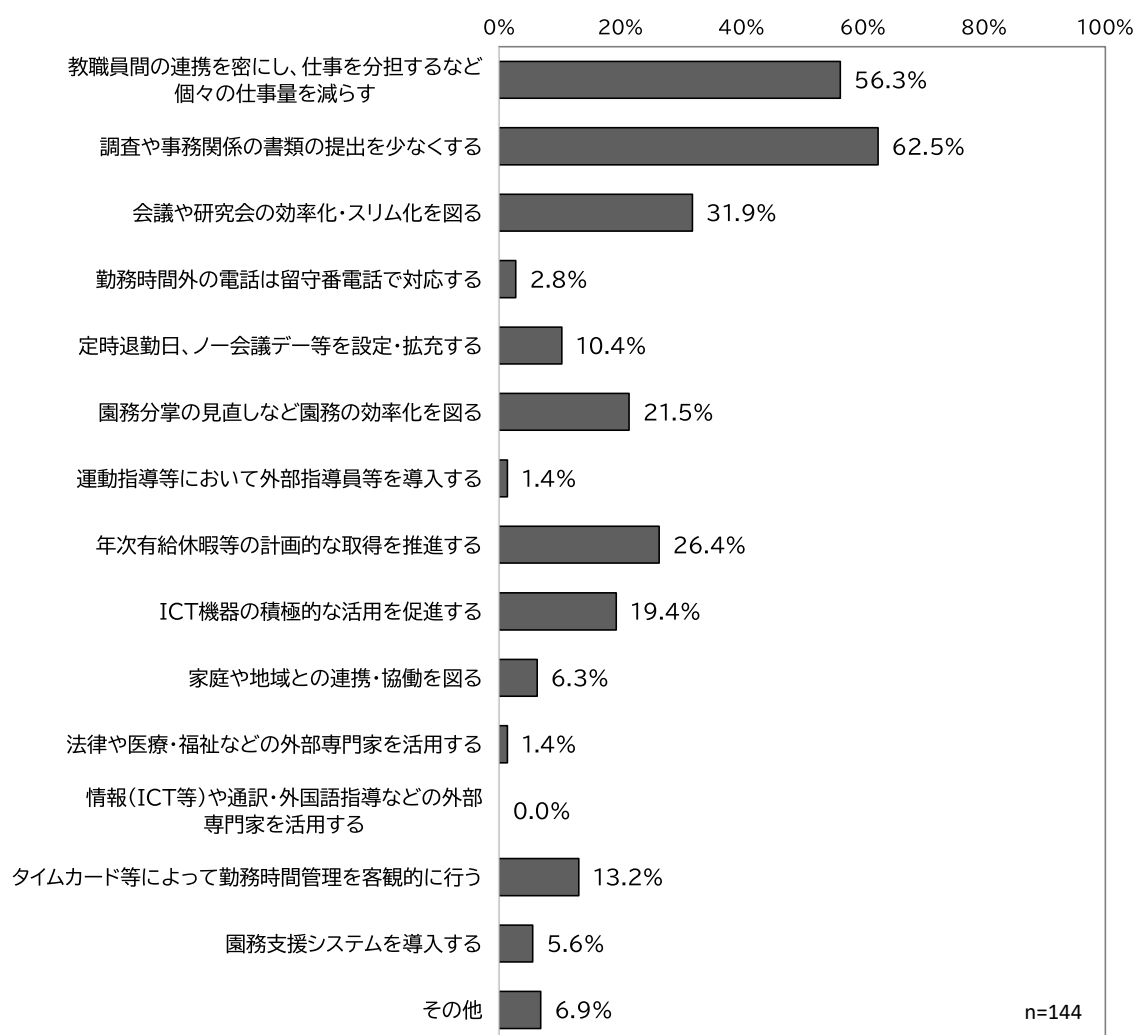
調査数(n=144)	回答数	割合
非対面での子どもたちへの指導	26	18.1%
感染対策に配慮した行事・イベントへの対応	89	61.8%
消毒・清掃など園内での感染防止対策	85	59.0%
子どもたちの健康管理・配慮	71	49.3%
教職員の健康管理・配慮	54	37.5%
関連する情報の収集・共有	18	12.5%
保護者・家庭への情報提供や相談対応	21	14.6%
周辺地域・市民との対話や情報提供	1	0.7%
教職員など園関係者の情報共有	6	4.2%
その他	2	1.4%



問 12 多忙を解消するために必要なことは何だと思いますか。(〇は3つまで) 【MA】

○「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす」の割合が 56.3%、「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が 31.9%となっています。

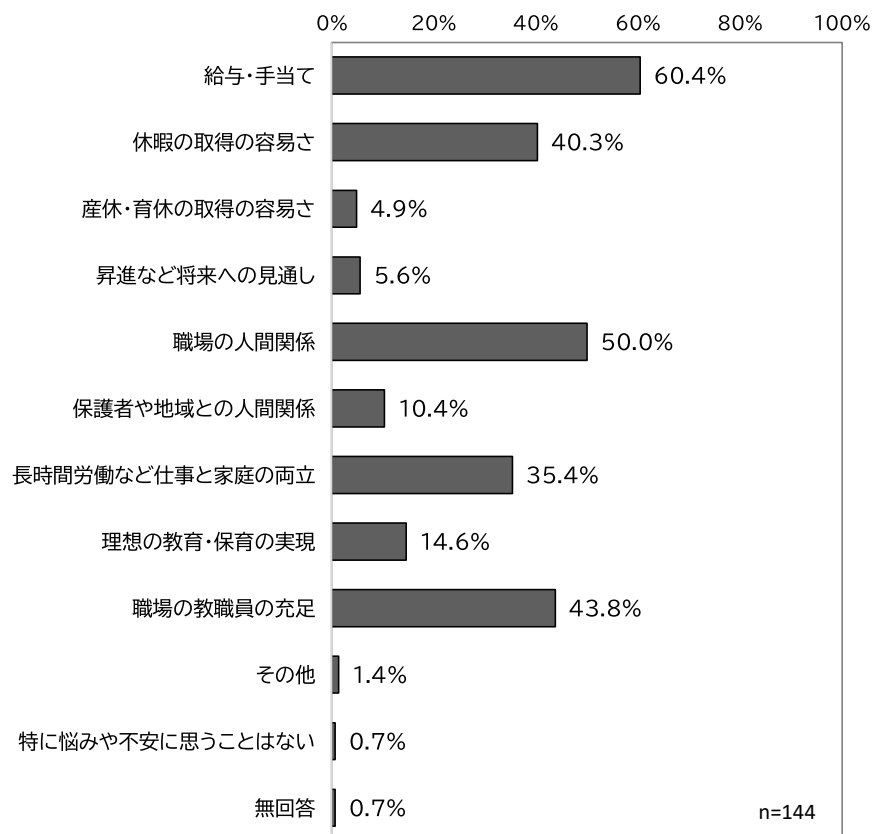
調査数(n=144)	回答数	割合
教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす	81	56.3%
調査や事務関係の書類の提出を少なくする	90	62.5%
会議や研究会の効率化・スリム化を図る	46	31.9%
勤務時間外の電話は留守番電話で対応する	4	2.8%
定時退勤日、ノー会議デー等を設定・拡充する	15	10.4%
園務分掌の見直しなど園務の効率化を図る	31	21.5%
運動指導等において外部指導員等を導入する	2	1.4%
年次有給休暇等の計画的な取得を推進する	38	26.4%
ICT機器の積極的な活用を促進する	28	19.4%
家庭や地域との連携・協働を図る	9	6.3%
法律や医療・福祉などの外部専門家を活用する	2	1.4%
情報(ICT等)や通訳・外国語指導などの外部専門家を活用する	-	-
タイムカード等によって勤務時間管理を客観的に行う	19	13.2%
園務支援システムを導入する	8	5.6%
その他	10	6.9%



問 13 働き続ける上での悩みや不安、特に重視することは何ですか。(〇は3つまで) 【MA】

○「給与・手当」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「職場の人間関係」の割合が 50.0%、「職場の教職員の充足」の割合が 43.8%、「休暇の取得の容易さ」の割合が 40.3%となっています。

調査数(n=144)	回答数	割合
給与・手当	87	60.4%
休暇の取得の容易さ	58	40.3%
産休・育休の取得の容易さ	7	4.9%
昇進など将来への見通し	8	5.6%
職場の人間関係	72	50.0%
保護者や地域との人間関係	15	10.4%
長時間労働など仕事と家庭の両立	51	35.4%
理想の教育・保育の実現	21	14.6%
職場の教職員の充足	63	43.8%
その他	2	1.4%
特に悩みや不安に思うことはない	1	0.7%
無回答	1	0.7%



大阪狭山市の教育に関して、望まれることや具体的な提案・感想がございましたら、ご記入ください。(自由記述)

回収した 144 件中、32 件 (22.2%) で何らかの記載がありました (「特になし」などの記載を除く)。なお、1 件の回答で複数の意見・提案をしている場合があり、その場合、それぞれの分野に計上しているため、件数の合計が回答数の 32 件を超えています。

具体的な意見については、同様の意見のとりまとめ、長文の主旨の抜粋など、整理をしている場合があります。

「教育体制・教育内容」に多くの意見。子育てや生涯学習にも多数の提案・要請

- ・大きな分類でみると、最も多くの意見・提案があったのが「(1) 教育体制・教育内容」に関してで 20 件、以下「(2) 働き方改革・働く環境」(16 件)、「教育施設・設備」(8 件) となっています。

分類	件数
(1)教育体制・教育内容	20
(2)働き方改革・働く環境	16
(3)教育施設・設備	8
(4)その他	2

【分類ごとの主な意見例】

【方針と取り組み】

(1) 教育体制・教育内容 (20 件)		
	①職員の確保・適正配置について (10 件)	
意見例	・一人ひとりの子どもに対応できる職員数の確保、配置基準の見直し ・トラブルや避難時に対応できる職員の適正配置 ・新たなサービスの導入に際しては体制・制度の整備が不可欠	
	②支援が必要な子どもについて (6 件)	
意見例	・何らかの支援が必要な子どものための巡回相談支援の充実 ・関連施設・組織との連携の強化 ・支援が必要な子どもへの専門家による対応、専門家による保護者対応	
	③その他 (4 件)	
意見例	・民間施設も含めた幼保小中高連携の充実 ・だれでも通園制度は現場のさらなる混乱を危惧 ・ヤングケアラー対応における関係機関の役割の明確化 ・小さなまちの特色を生かした密度の濃い教育の推進	

(2) 働き方改革・働く環境 (16 件)		
	①ワークライフバランスについて (6 件)	
意見例	・適切な勤務時間・給与体系の確保 ・時間外勤務の削減 ・有休日数の増加、適切な消化の保障	
	②給与について (6 件)	
意見例	・仕事量に見合った給与水準の確保 ・経験に対する適切な評価 ・仕事内容による適正な評価 (非正規職員・正規職員の格差解消)	
	③人事・異動について (2 件)	
意見例	・異動への現場意見の反映や通知の早期化	
	④D X 化について (2 件)	
意見例	・指導要録の電子化 ・SIDS(乳幼児突然死症候群) 予防センサーの導入	

(3) 施設・設備の整備 (8 件)		
	①施設・設備(ハード)について (6 件)	
意見例	・施設・設備の充実、老朽化への対応 ・エアコン、暖房やトイレなど、子どもの安全に関わる設備の早期整備	
	②施設数について (2 件)	
意見例	・保育園数の拡充 ・子ども園の新設	

(4) その他 (2 件)		
意見例	・新しい保育 (サービス・事業) 等の管理者への普及・啓発 ・管理者と現場の意識格差の是正	